

THE RECORD 12

2000
No.493

- 再販制度を守るための最近の動向について
- レコードファン感謝祭「廃盤特別謝恩セール」開催
- IFPI中央理事会
- 統計資料－世界のレコード中間売上

RIA
Recording Industry Association of Japan

再販問題

音楽用CD等の再販制度を守るための 最近の動向について

公正取引委員会（以下、公取委）は、平成13年春を目途に著作物再販制度自体の存廃について結論を得るとの考えを平成10年3月末に明らかにし、レコード業界など関係業界に対して、消費者利益確保の観点から、同制度の運用の弾力化、また同制度の下で見られる各種の流通・取引慣行上の弊害等についての是正措置を講ずるよう求めました。

公取委は、平成12年に入り著作物再販問題に対する最終結論を出すべく、各関係団体と「再販対話」を行い、レコード業界とは2月から6月まで計5回対話の場が持たれました。対話では、「多様な種類の商品の維持」「全国均一価格の維持」「レコード店の品揃えの確保」「最寄りレコード店の維持」「文化政策の補完的機能」「現行の再販制度の弊害の存否」「書籍・雑誌との類似点」等の論点について活発な意見交換が行われました。

またこの「再販対話」に関連し、6月と8月には公取委からレコード業界に対して「音楽用CD等再販における論点及び質問事項」と題する質問状が出されました。これについては7月と9月に「回答書」を作成し、当協会、日本レコード商業組合、全国レコード卸同業会の3団体連名で公取委委員長宛に提出しました。

公取委では、「再販対話」の議論及び8月に実施した「音楽用CD、レコード及び音楽用テープの販売等の状況に関するアンケート調査」の結果、レコード業界における再販制度の運用状況と流通・取引慣行改善等の取組状況等を取りまとめ、「報告書」を平成12年内に公表することとしています。

◎再販制度に関する弾力的な運用と流通改善について

レコード業界では、再販制度の弾力運用に関しては、平成4年4月以降各社自主的に前向きな姿勢で取組み、2年間の時限再販制度の完全導入、廃盤セールの実施、多種多様な価格帯の設定などを行って来ましたが、平成10年の公取委の検討結果を受け、レコードメーカー各社は、次の通り積極的に再販制度の更なる弾力運用施策等を実施しています。

- ① 当協会加盟社では、平成10年11月から従前の一律2年間の時限再販期間を各社の判断で、一部の品目について6カ月又は1年に順次短縮しています。
- ② 一部のメーカーでは、発売日から非再販のCDを発売しています。
- ③ 当協会加盟社は、平成4年以来毎年大規模な廃盤セールを実施しています。

④ レコードメーカー協力によるレコード販売店店頭における、時限再販期間経過商品の割引販売セールが行われています。

⑤ レコードメーカー各社から新譜発売されているレコードの価格帯は、「アルバム」、「シングル」とも多種多様な設定をしています。

⑥ サービス券・ポイントカード等の利用については、販売店は1979年の公正取引委員会の指導もあって、値引きという考えではなく、個々の販売店の販促・ユーザーサービスの一環として実施しています。

⑦ インターネット通販等にも多くの販売業者が参入して、流通ルートが多様化しています。

⑧ 流通面では、共同受注、共同倉庫、共同配送のシステムを運営しており、非常に進んだ物流システムを持っていますが、なお一層の改善やコストダウンを図り、消費者利益の向上に努めています。（なお、レコード業界の再販制度に関する弾力的な運用と流通改善については、本誌8月号に掲載しますので、詳しくはこちらをご参照下さい。）

◎再販制度存続を求める活動について

既報（本誌3月号）の通り、本年2月23日には、音楽議員連盟（超党派国会議員73人所属）の第25回総会が開催され、『音楽用CD等「著作物の再販売価格維持制度」の存続要望に関する特別決議』が、満場一致で採択されています。

10月11日には、自民党・音楽文化振興議員懇談会（自由民主党議員有志68名所属）が自民党本部において開催されています。

当日は、席上、同懇談会会長の島村宜伸氏から挨拶、続いて音楽団体代表として当協会富塚会長から再販制度存続の要請が行われました。この後、公正取引委員会嵯崎憲安取引部長及び文化庁葦沢弘志文化部長からレコード再販に関してそれぞれ報告が行われ、続いて音楽関係団体からの要望・意見として、日本作詩家協会副会長湯川れい子氏が「音楽用CD等の再販制度見直しに関する要望書」を読み上げ、この「要望書」を提出しました。

この後、今後の活動予定について本会事務局長今村雅弘議員から説明があり、意見交換に入りました。最後にまとめとして、本会幹事長小野晋也議員から行政側への要請と音楽団体へのエールが送られて終了しました。

10月16日には、音楽文化懇談会10団体連名の公取委員長宛での「音楽用CD等の再販制度見直しに関する要望書」を公取委へ提出しました。

以下が同要望書の内容です。

音楽用CD等の再販制度見直しに関する要望書

貴公正取引委員会（以下「公取委」と称します）におかれましては、平成10年1月に「再販問題検討のための政府規制等と競争政策に関する研究会」がとりまとめた「著作物再販適用除外制度の取扱いについて」を貴公取委の主張の拠り所とされ、音楽用CD等の著作物の法定再販制度の存廃について、平成13年3月末を目途に最終結論を出すべく、鋭意検討を進めておられます。音楽業界に深く携わる私共は、我が国の音楽文化や音楽教育の健全な発展のために有効に機能している現行の音楽用CD等の再販制度の重要性について、改めて十分な理解をして頂きたいと要望いたします。

つきましては、音楽用CD等の再販制度の存廃について貴公取委の結論を纏めるにあたりましては、音楽用CD等の果たしている下記の役割についてのご理解の上に立たれ、この有効で優れた制度が将来も廃止されることのないよう、ご高配頂きたいと、御願い申し上げます。

記

1. 音楽用CD等の再販制度の意義と役割

音楽用CD等の再販制度は、小売業者に販売しているメーカーの更に上流に位置する作家（作詞家・作曲家・編曲家）や実演家（歌手・アーティスト、演奏家）の人格権と財産権を守りながら、こうした人々の精神的創造物たる著作物の拡大再生産、創造のサイクルを維持・発展させております。更に全国一律の価格であることから音楽文化の享受の地域間格差をなくす上で、大変大きな役割を担っております。こうした点からも我が国の文化国家としての地位を音楽面を通して維持・発展する為の国家の秀でた社会制度であると確信しております。

また、音楽用CD等の再販制度の存在意義は、巷間言われる「競争政策至上主義」、「市場原理万能主義」では律し得ない、国民の心の豊かさをどう図るかという我が国の文化政策領域の中にあると存じます。

2. 音楽用CD等の再販制度と消費者利益

平成7年3月に閣議決定された規制緩和推進計画の目的は、まず「消費者ニーズに対応した選択幅の拡大」を図ることと記載されておりますが、現行の規制緩和推進3か年計画（再改定）（平成12年3月31日閣議決定）においても、重要事項の一つとして「選択の自由

と多様性の確保」が掲げられており、この精神は継承されております。

我が国の音楽用CD等の再販制度は、リスナー（消費者）が多種多様な幅広い音楽CD作品を選ぶことを可能とする制度として機能してきました。

また価格・流通面でも消費者利益を何ら害することなく、今日に及んでおります。こうした事々は、私ども音楽業界の代表と貴公取委事務局との再販対話の場等で従前にもましてご説明申し述べております通りです。

我が国では、再販制度に守られることによりまして、日本人のアイデンティティーの形成とその発展に欠くことの出来ない独自の民謡、三味線、琴、吟詠などの伝統芸能音楽や童謡、学校教育用音楽、演歌、歌謡曲はもとより、Jポップ等の日本の大衆音楽、クラシックや各国の多様な音楽まで、世界で最多の種類の音楽用CD等のレコードを発売することができております。

趣味嗜好性の極めて強い精神的な文化商品であるレコードは、リスナー（消費者）にとって、選択の幅の広さが最も重要であります。万一、音楽用CD等の再販制度が廃止された場合には、「売りにくいが高値ある多くの希少な音楽作品がこれまでのように作られなくなり」、「作家や実演家の活躍の場も今より失われ」ひいては我が国の音楽文化が荒廃・衰退し、リスナー（消費者）に大きな不利益を与えるものになると危惧を抱いております。

音楽用CD等で発売されなくなって、一度失われた芸能や音楽の復活、実演家の再育成は、ほとんど困難となります。

3. 最後に

本件は国の文化や芸術の発展、また教育政策にも関わるものであり、これらの点について十分配慮して慎重に検討すべき問題であります。

貴公取委内の最終結論に向けた作業におかれましては、「競争政策万能主義」の一部の強硬意見にとらわれず、我が国の音楽用CD等の再販制度が音楽文化の発展・維持に極めて効果的に機能している現実に目を向けて頂き、民主的かつ公正な審議を十分に尽くしていただきたいと存じますとともに、広く我が国の文化政策の観点からも充分ご高配願ひ、将来に禍根を残すことのないよう、最終結論を導いて頂きたいと存じます。

現在のように「多種多様な豊富な選択肢」が維持される制度であり、リスナー（消費者）に何ら不利益を与えていない、我が国の音楽用CD等の再販制度が、これからも存続いたしますよう、重ねて切望いたします。

以上

10月25日には、公明党要請懇談会を開催、浜四津敏子代表代行、冬芝鉄三幹事長、北側一雄政策審議会議長他党幹部が出席し、当協会富塚会長から再販制度存続の要請が行われ、音楽文化懇談会10団体連名の「再販存続要望書」を公明党に提出しました。

11月9日には、文部省、文化庁の呼びかけによって、音楽用CD等の再販制度の存続を関係方面に訴えるために、音楽関係団体の代表を集めて「音楽文化協議会」が開催されました。

この会合には、大島理森文部大臣、鈴木恒夫総括政務次官、松村龍二政務次官、文化庁佐々木正峰長官、伊勢呂裕史次長の他、文部省、文化庁の幹部及び実演家、作詩・作曲家、レコード製作者、レコード販売業者などの音楽業界団体の代表が出席しました。

会議冒頭、大島文部大臣は挨拶の中で、「競争社会においても、再販制度によって数多くのCDの発売を可能としていることや日本の隅々までどこでも同じ価格でCDが買えるというのは、文化を守るという点で再販が大きな役割を果たしていると考えられる」との見解を示しました。続いて音楽関係代表者として当協会稲垣副会長から「レコード業界は、我が国の音楽文化を守るという観点から永年音楽用CD等の再販制度の意義と再販存続の必要性を訴え続けております。この再販制度が、廃止されることのないよう引続きお力添えを賜わりたい」との挨拶がありました。音楽関係団体の代表の方々からも、音楽用CD等の再販制度が、如何に我が国の音楽文化の発展・維持のために必要な制度であるか、それぞれの立場から意見が述べられ、文部大臣ら出席者の共感を得ました。

この後、再販堅持についての3頁からなる緊急アピール文案「音楽用CD等における著作物再販制度の役割と意義」が提案され、満場一致で採択されました。

緊急アピール文案「音楽用CD等における著作物再販制度の役割と意義」(要約文)

音楽文化協議会は、教育・学術・文化の振興・普及の観点から、著作物再販制度を堅持すべき旨を改めて表明する。

1 「音楽文化」振興の重要性

- 文化は、創造性を育み、社会や経済に活力を生み出す源泉。なかでも音楽は、今やすべての人々の生活に欠かせないものとなっており、また、音楽と人間は密接にしかも多岐にわたって関わりを持ち、その意味で、日本人のアイデンティティの形成に大きく関与。
- 21世紀において、国民一人ひとりが真にゆとりと

潤いを実感できるようにするためには、「音楽文化」の振興・普及が不可欠。

2 音楽用CD等の特色

- 消費者が真に求めているのは、本当に自分の心を満たしてくれるCDを見つけること、そして、それを可能にする音楽作品の選択幅の広さ。
- 我が国において発売される音楽用CD等の作品数は世界一であり、アメリカの約3倍。

3 著作物再販制度の意義

- 多種多様なCDとの出会いの場を確保することを根幹から支えているのが再販制度。
小売価格を固定することにより、品揃えが売れ筋の商品に偏重することなく、また、多くの販売拠点を確保することが可能。
- 再販制度は、国民生活に不可欠な多種多様な著作物を、国民のだれもが、全国どこにいても同一の価格で、容易に確実に入手することを可能にしているものであり、我が国の文化政策上の意義は極めて大きく、その維持は不可欠。

4 著作物再販制度の影響

- 再販制度廃止により、レコード店は売れ筋のCDに仕入れを絞り、クラシックや伝統芸能などの商品化が困難。
- 最寄りの中小レコード専門店は減少し、地域住民がCDを容易に入手することが困難。
- 小売価格の値上げや地方間の価格差も懸念。
- 多くのアーティストの活躍の場が減少するなど、音楽文化の衰退を招く。
- 著作物の多様性が喪失するとともに、文化の地域格差が拡大するなど、文化の発展に多大な悪影響。

5 おわりに

以上述べたように、音楽用CD等における著作物再販制度は、著作物の多様性の確保や文化の公平な享受を実現するなど、文化の振興・普及に極めて大きな役割を果たしている。これを廃止した場合に生じる影響の大きさ、その影響を解消できる代替的な方策確保の困難さなどに鑑みると、著作物再販制度は今後とも維持すべきである。このことについて、国民、関係者の皆様方のご理解を得ることができれば幸いである。

レコード業界では、日本の音楽文化を守る大きな柱となっている音楽用CD等の再販制度を維持するために、今後も様々な活動を通じて、再販制度の意義と必要性を訴えていきます。

レコードファン感謝祭「廃盤特別謝恩セール」開催

11月18日(土)、19日(日)の2日間にわたり、当協会加盟24社主催、当協会、日本レコード商業組合、全国レコード卸同業会協賛、社団法人日本オーディオ協会協力による「新品CD大ディスカウントフェアレコードファン感謝祭2000廃盤特別謝恩セール」が、東京・江東区の東京ビッグサイト西1ホールにて開催されました。

このセールは、レコードファンへの感謝の意味を込めて、今年1年間に廃盤となったCD、レコード、ビデオカセット、レーザーディスク等を一同に出品、70%の割引で販売するもので、平成4年度より毎年開催されており、今年で9回目となりました。

今回も日本オーディオ協会主催のオーディオエキスポと同時開催で、出品タイトル数は7,444タイトル、出品数は約19万枚でした。また、輸入盤と発売後2年を経過した時限再販切れ商品のコーナーの他、今回は、レーザーディスクの特別コーナーも設置されました。

両日とも穏やかな好天に恵まれ、熱心なファンが会場前から会場に集まるなど、多くのレコードファンが来場されました。入場者数は、初日4,233人、2日目が4,770人の合計9,003人でした。売り上げは、初日が3万8,558枚/2,990万円、2日目が1万3,345枚/1,049万円、の合計5万1,903枚/4,039万円でした。

なお、過去の実績を一覧表にまとめましたのでご参照ください。

廃盤セール実績

	第3回 1994年	第4回 1995年	第5回 1996年	第6回 1997年	第7回 1998年	第8回 1999年	第9回 2000年	
	東京タワー ボウリングセンター	東京タワー ボウリングセンター	東京タワー ボウリングセンター	東京タワー ボウリングセンター	東京ビッグサイト 西1ホール	東京ビッグサイト 西1ホール	東京ビッグサイト 西1ホール	前年比
1日目	10月29日	10月21日	10月19日	10月18日	10月17日	11月20日	11月18日	
入場者数	4,596人	4,295人	3,912人	3,783人	5,532人	6,412人	4,233人	66.0%
購入客数	4,009人	3,744人	3,463人	3,345人	3,468人	3,695人	3,063人	82.9%
購入率	87%	87%	89%	88%	63%	58%	72%	
売上枚・巻数	36,363	46,017	49,488	50,590	40,361	46,265	38,558	83.3%
売上金額	32,852千円	40,174千円	42,938千円	40,864千円	31,086千円	36,224千円	29,900千円	82.5%
客単価	8,195円	10,730円	12,399円	12,216円	8,964円	9,804円	9,762円	99.6%
平均購入枚・巻数	9.1	12.3	14.3	15.1	11.6	12.5	12.6	100.5%
2日目	10月30日	10月22日	10月20日	10月19日	10月18日	11月21日	11月19日	
入場者数	2,979人	2,288人	1,929人	1,656人	3,401人	4,819人	4,770人	99.0%
購入客数	2,264人	1,830人	1,549人	1,326人	1,650人	1,965人	1,955人	99.5%
購入率	76%	80%	80%	80%	49%	41%	41%	
売上枚・巻数	18,372	17,709	17,471	14,611	11,804	14,974	13,345	89.1%
売上金額	15,092千円	14,135千円	13,398千円	10,958千円	8,844千円	11,690千円	10,490千円	89.7%
客単価	6,666円	7,724円	8,649円	8,264円	5,360円	5,949円	5,366円	90.2%
平均購入枚・巻数	8.1	9.7	11.3	11.0	7.2	7.6	6.8	89.6%
2日間合計								
入場者数	7,575人	6,583人	5,841人	5,439人	8,933人	11,231人	9,003人	80.2%
購入客数	6,273人	5,574人	5,012人	4,671人	5,118人	5,660人	5,018人	88.7%
購入率	83%	85%	86%	86%	57%	50%	56%	
売上枚・巻数	54,735	63,726	66,959	65,201	52,165	61,239	51,903	84.8%
売上金額	47,944千円	54,309千円	56,336千円	51,822千円	39,930千円	47,914千円	40,390千円	84.3%
客単価	7,643円	9,743円	11,240円	11,094円	7,802円	8,465円	8,049円	95.1%
平均購入枚・巻数	8.7	11.4	13.4	14.0	10.2	10.8	10.3	95.6%
出品枚・巻数	265,000	235,512	222,031	239,766	266,508	278,509	190,910	68.5%
出品タイトル数	8,250W	7,425W	6,270W	5,892W	6,434W	8,594W	7,444W	86.6%
消化率	21%	27%	30%	27%	20%	22%	27%	

権利の執行に関する香港調査実施

法律の専門家と権利者団体の委員で構成される「権利の執行に関する協力事業」タスク・フォースが、10月30日(火)～11月4日(土)、香港で現地調査を行いました。

タスク・フォースは、香港音楽著作権協会(CASH)、Lovells法律事務所、香港税関、国際映画協会(MPA)、国際レコード制作者連盟(IFPI)の5カ所を訪問し、権利侵害に対する実務的な執行方法等について聞き取り調査を行いました。

香港では、1997年に著作権法が改正、翌年には海賊防止著作権条例が制定され、これらの法律に基づいて、民間と税関が協力して執行事業を推進しています。今回の調査で、その執行事業が、権利侵害行為を激減させることに成功していることが実感できました。

なお、同タスク・フォースには、社団法人コンピュータソフトウェア著作権協会、社団法人日本映像ソフト協会、社団法人日本音楽著作権協会及び当協会から委員が参加しています。

IFPI中央理事会

11月9日(木)、ニューヨークにおいて、2000年秋のIFPI中央理事会が開催されました。

世界のレコード産業にとって、「氾濫する海賊版」は引き続き最大の問題と位置づけられています。

<海賊関係>

アジアの海賊CDの供給源は香港からインドネシア等に移動し、ここから東欧、北欧に輸出されています。また、中南米・欧州・北米の地域ではCD-Rを使った海賊盤に対する取締りに躍起になっています。

インターネット上の音楽の違法利用も後を絶たず、これに対して、違法行為の効果的検索システムを開発中であることが報告されました。

<技術関係>

国際的なレコードの権利管理に必要なとされる権利情報を中心とした国際的なデータベース・システムの構築が進められていることが報告されたほか、あらゆる違法行為に対して効果的な技術的保護手段を講じたCDの開発に向けての研究が行われていることが報告されました。

<法制関係>

WIPOの著作権条約と実演・レコード条約批准に向けたEU著作権指令が来年早い時期に完成される見込み

であることが報告されました。また、インターネットのオリジナル番組送信(webcasting)については、国によって権利内容が異なるため、権利許諾問題が複雑化していることが指摘されました。

まなびピア三重2000

11月1日(水)から5日(日)の5日間、三重県四日市市・「四日市ドーム」において第12回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア三重2000」が開催されました。このフェスティバルは、生涯学習に係る活動の場を全国規模で提供することにより、広く国民一人ひとりの生涯学習への意欲を高めるとともに、学習活動への参加を促進し、生涯学習の一層の振興を図ることを目的として毎年開催されているものです。

当協会も会員となっている「不正商品対策協議会」は、このイベントの第1回目から毎回展示ブースを設けています。今回は、不正商品と真正品を展示して、それらに関連したクイズやアンケートを行い、来場者に対して不正商品に対する知識と知的所有権の大切さをアピールしました。近年、不正商品への関心が高まる中、非常に多くの来場者が当協議会展示ブースに立ち寄り、多くの人々に知的所有権に対する理解を深めてもらいました。

現在、不正商品対策協議会には、コンピュータソフトウェア著作権協会(ACCS)、日本映像ソフト協会(JVA)、日本音楽著作権協会(JASRAC)、日本芸能実演家団体協議会(芸団協)、日本国際映画著作権協会(JIMCA)、日本商品化権協会(JAMLA)、ビジネス・ソフトウェア・アライアンス(BSA)、ユニオン・デ・ファブリカン(UDF)、そして当協会の9団体が正会員として、また、ルイ・ヴィトン・ジャパン(株)が協賛会員として参加しています。



「新IDワークショップ」開催

RIAAが推進している「新IDプロジェクト」の一環として、去る11月27日(月)から29日(水)にかけて、当協会会議室においてワークショップが開催されました。

このRIAAのプロジェクトは、音楽配信の将来のビジネスモデルに焦点を当てながら、ネットワーク上で流通されるデジタル・コンテンツ(配信パッケージ)をユニークに、かつ、効率的に識別するための番号体系の国際標準を作り、その番号を持つコンテンツのあらゆる情報(メタデータ)を容易に参照できるグローバルなデータベース・システムを構築することを最終目標としたものです。言うなれば、この識別番号は、ネットワーク配信パッケージの“POSコード”とも言えます。IFPIもサポートするこのプロジェクトは、音楽産業の世界主要地域から出される意見を盛り込みながら、来年3月を期限として、上記新IDシステムの仕様を取りまとめる予定です。

今回のワークショップには、Rightscom社(RIAAからプロジェクト推進の委託を受けた英国のコンサルタント会社)のKeith Hill氏、及びIFPIのPhilippa Morrell女史が参加され、会議はHill氏の司会で進行されました。ワークショップでは、新IDシステムの構想が日本の音楽産業に紹介され、そして、日本の音楽配信における現状のビジネスモデルや、ISRCを核とした音楽産業のデータベース・プロジェクトなどとの関連が検討されました。新IDシステムの構想の基本的理解と検討において、ワークショップ参加者から多くの質問が寄せられ、活発な議論が行われました。

ワークショップは、レコード会社向けと音楽関連団体向けに分けて開催されました。27日及び28日の2日間で開催されたレコード会社向けワークショップには、当協会会員レコード会社から各日15名程度の参加者がありました。また、29日の音楽関連団体向けのワ

ークショップには、当協会をはじめとし、JASRAC、MPA、芸団協、CPRA、MINCから参加がありました。29日には、日本の音楽関連団体の共同プロジェクトであるMINCの活動内容が紹介され、ISRCを核として各団体の情報をマッチングさせるデータベース構築の現状と、音楽配信時代を見据えたMINCの将来像の構想が紹介されました。

当協会新年会のお知らせ

平成13年の当協会新年会は、1月9日(火)午後四時より赤坂プリンスホテル「五色の間」にて行われます。

当協会理事交替

当協会10月度理事会において、新理事として株式会社徳間ジャパンコミュニケーションズ代表取締役副社長牧田謙吾氏の理事就任が承認されました。

製造事業所の皆様へ

通商産業省では、工業統計調査及び石油等消費構造統計調査を平成12年12月31日現在で実施します。

工業統計調査は、製造業を営む事業所を対象として、その活動実態を調査します。また、石油等消費構造統計調査は、産業別、規模別、地域別に我が国産業のエネルギー消費の実態を明らかにすることを目的としています。

これらの調査結果は、国や地方公共団体の行政の重要な基礎資料として利用されるとともに、大学や民間の研究機関等においても広く利用されているところです。

皆様から提出いただく調査票については、統計法に基づき、調査内容の秘密は厳守されますので、正確な御記入をお願いいたします。

会議メモ(主なもの)

(11月1日～11月30日)

11・2 eCATS-WG

11・7 新ID対応プロジェクト
CSM-WG

11・8 著作権部会

11・9 インターネット部会

カラオケ教室不法録音物対策委員会

11・13 営業部会

11・14 CSM-WG

11・15 業務委員会
洋楽企画専門部会

11・16 60周年委員会

CSM-WG

ワークフロー推進WG

再販問題研究プロジェクト

11・17 DMI-WG

カラオケ対策委員会合同プロジェクト

11・20 ビデオ部会

11・21 GD大賞審査部会

11・21 調査統計部会

洋楽宣伝専門部会

邦楽制作部会

11・22 情報システム部会

洋楽部会

11・24 理事会

CSM-WG

11・28 法制委員会

11・30 技術委員会



■アルバム (12作品)

【邦 楽】

●プラチナ

SMAP 014/SMAP/2000.10.14 (V)

●ゴールド

BASED ON A TRUE STORY/ZEEBRA/
2000.06.14 (PS)

Sweet 15th Diamond/ 渡 辺 美 里 /
2000.07.19 (SME)

progress/T.M.Revolution/2000.10.12
(AR)

4FLUSHER/スガシカオ/2000.10.25 (UM)

ダイヤモンド/矢井田 瞳/2000.10.25 (TO)

2 souls/花*花/2000.10.25 (WJ)

【洋 楽】

●クワドラプル・プラチナ

image/V.A./2000.08.23 (SME)

●プラチナ

チョコレート・スターフィッシュ・アンド・ザ・ホ
ット・ドッグ・フレイヴァード・ウォーター/リン
プ・ビズキット/2000.10.14 (UM)

オール・ザット・ユー・キャン・リーヴ・ビハイン
ド/U2/2000.10.25 (UM)

●ゴールド

レニー・クラヴィッツ・グレイテスト・ヒッツ/レニ
ー・クラヴィッツ/2000.10.18 (TO)

ザ・スペシャル・ベスト/セリーヌ・ディオノ/
2000.10.25 (SME)

■シングル (14作品)

【邦 楽】

●ダブル・プラチナ

Everything/Misia/2000.10.25 (BMG)

●プラチナ

GOLDFINGER'99/郷ひろみ/1999.07.23
(SME)

RING/B'z/2000.10.04 (BM)

HEY!/福山雅治/2000.10.12 (UM)

ボーイフレンド/aiko/2000.09.20 (PC)

●ゴールド

月光/鬼束ちひろ/2000.08.09 (TO)

if.../DA PUMP/2000.09.27 (AVT)

My Sweet Darling/矢井田 瞳/2000.10.04
(TO)

PLEASE SMILE AGAIN/ 安 室 奈 美 恵 /
2000.10.04 (AVT)

LOVE OR LUST/平井 堅/2000.10.18
(SME)

飛べない鳥/ゆず/2000.10.18 (SN)

愛のカケラ/Every Little Thing/2000.10.18
(AVT)

Treasure/hiro/2000.10.25 (TF)

CHANGE THE WORLD/V6/2000.10.25
(AVT)

※AR: アンティノスレコード/AVT: エイベックス/BG: ビーグラムレコーズ/BM: ルームスレコーズ/BMG: BMGファンハウス/C: 日本コロムビア/CA: カナリー企画/CR: 日本クラウン/CT: カッティング・エッジ/EP: ゼティマ/EW: イーストウエスト・ジャパン/FL: フォーライフレコード/GZ: ギザ/JE: ジャニーズ・エンタテインメント/JF: J-FRIENDS P./K: キングレコード/ME: メルダック/MME: マーキュリー・ミュージックエンタテインメント/PC: ポニーキャニオン/PG: ポリグラム/PI: パイオニアLDC/PO: ポリドール/PS: ポリスター/PZ: ピザ・オブ・デス・レコーズ/SME: ソニー・ミュージックエンタテインメント/SN: SENHA & CO./TE: テイチクエンタテインメント/TF: トイズ・ファクトリー/TJC: 徳間ジャパンコミュニケーションズ/TO: 東芝EMI/UM: ユニバーサルミュージック/V: ビクターエンタテインメント/VAP: バップ/WJ: ワーナーミュージック・ジャパン/ZA: ヴァインレコーズ

世界の話題

IFPI・世界のレコード産業年鑑2000年度版を発行

IFPIは、世界の音楽市場データを取りまとめたレコード産業年鑑2000年度版を9月に発行しました。この年鑑は、録音済音楽ソフトについて、全世界・地域別・国別に、91年から99年にかけて調査したもので、形態別・レポートリー別に販売数量・金額等について収録しています。

そのほかにも関連データが収録されていますが、その中から、主要国の主なデータをご紹介します。

【1998年レコード売上規模・国別ランキング上位10ヶ国】

	国名	売上金額 (単位: 百万USD)	世界市場での シェア (%)
1	アメリカ	14,251.4	37.0
2	日本	6,436.6	16.7
3	イギリス	2,908.9	7.6
4	ドイツ	2,832.5	5.2
5	フランス	1,983.4	2.3
6	カナダ	883.6	1.7
7	ブラジル	668.4	1.7
8	オーストラリア	656.3	1.7
9	スペイン	639.5	1.7
10	メキシコ	626.0	1.6
	合 計	31,886.6	82.8

<1998年基本データ>

※世界の人口: 60億人

※25歳以下の人口: 48%

※発展途上国の人口: 91%

※言語の使用状況 (人口比)

中国語: 15%

スペイン語: 6%

英語: 5%

ベンガル語: 3%

ヒンディー語: 3%

【1991～1998全世界売上合計推移】

年度	シングル (百万枚)	LP (百万枚)	カセットテープ (百万巻)	CD (百万枚)	MD	総計 (百万USD)
1991	333.9	291.6	1,492.8	997.5	-	27,476.2
1992	352.2	174.5	1,476.4	1,185.2	-	29,464.1
1993	410.3	108.5	1,381.7	1,418.6	-	31,158.0
1994	390.2	49.3	1,354.4	1,784.0	-	36,124.0
1995	431.8	33.0	1,200.0	1,983.4	-	39,717.3
1996	466.0	21.0	1,188.2	2,162.4	-	39,812.0
1997	517.2	18.4	1,054.1	2,243.1	-	38,530.2
1998	458.8	22.9	914.3	2,372.0	-	38,236.7
1999	438.4	15.6	858.6	2,438.1	1.0	38,506.5

1991年から1999年までの年平均伸長率は2.6%ですが、昨年対比では0.7%の伸びとなっています。

【各地域データ】

地域	1999年、世界売上におけるシェア(%)		1991～1999年平均伸長率(%)		1人当たりのアルバム購入数量
	数量	金額	数量	金額	
ヨーロッパ	32.2	32.1	2.2	0.7	2.4
北アメリカ	33.7	39.3	4.7	5.3	3.7
アジア(日本を除く)	12.4	3.3	- 1.4	1.7	0.2
日本	9.3	16.7			2.2
ラテンアメリカ	6.6	4.9	5.4	4.3	0.5
オーストラリア	1.7	2.0	2.8	2.8	2.4
中東・トルコ	3.1	0.9	2.2	- 1.1	0.6
アフリカ	1.1	0.6	4.2	1.6	0.2

レコード生産実績

2000年10月度(00年10月1日～00年10月31日)

社団法人 日本レコード協会

数量 : 千枚・巻

単位

金額 : 百万円

表1. オーディオレコード

			10月 実 績						2000年（1月～10月）累 計					
			数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比	数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比
シン グ ル	8cm CD	邦	3,935	10	86	802	2	28	29,844	8	38	14,175	3	29
		洋	3	0	3	2	0	3	123	0	19	81	0	22
		計	3,939	10	84	804	2	27	29,967	8	38	14,256	3	29
	12cm CD	邦	10,339	27	136	8,598	19	148	88,248	25	196	69,615	16	202
		洋	87	0	96	76	0	103	765	0	65	665	0	68
		計	10,426	27	136	8,674	19	147	89,013	25	192	70,279	16	198
	小計	邦	14,274	38	117	9,401	21	108	118,092	33	95	83,789	19	100
		洋	91	0	48	78	0	61	888	0	49	746	0	55
		計	14,365	38	116	9,478	21	107	118,980	34	95	84,536	19	99
12cmCD アルバム	邦	12,177	32	68	19,371	43	68	156,492	44	98	251,602	57	92	
	洋	9,862	26	129	14,614	33	126	61,578	17	96	88,521	20	93	
	計	22,039	58	86	33,985	76	85	218,070	62	97	340,122	78	92	
C D 合 計	邦	26,452	70	88	28,771	64	77	274,584	78	97	335,391	77	94	
	洋	9,952	26	127	14,692	33	125	62,466	18	95	89,267	20	92	
	計	36,404	96	96	43,463	97	89	337,050	96	96	424,658	97	94	
アナログ ディスク	邦	113	0	45	129	0	41	1,401	0	65	1,419	0	57	
	洋	9	0	27	14	0	30	244	0	64	348	0	67	
	計	122	0	43	142	0	40	1,645	0	65	1,767	0	59	
カセット テ ープ	邦	1,452	4	100	1,302	3	87	13,957	4	98	11,297	3	94	
	洋	6	0	1261	7	0	474	72	0	94	64	0	88	
	計	1,457	4	101	1,308	3	87	14,029	4	98	11,361	3	94	
総合計	邦	28,017	74	88	30,202	67	77	289,942	82	97	348,106	80	94	
	洋	9,967	26	127	14,712	33	125	62,782	18	95	89,680	20	92	
	計	37,984	100	96	44,913	100	88	352,724	100	96	437,786	100	93	

表2. ビデオレコード

			10月 実 績						2000年(1月～10月) 累 計					
			数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比	数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比
DVD			2,303	51	404	5,905	37	341	17,412	46	384	41,698	38	386
LD・その他			292	6	59	439	3	40	2,737	7	67	5,378	5	55
テ ー プ			1,965	43	101	9,685	60	163	17,458	46	95	61,559	57	96
合 計			4,559	100	152	16,028	100	183	37,607	100	140	108,635	100	128

表3. オーディオ/ビデオ合計

			10月 実 績						2000年(1月～10月) 累 計					
			数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比	数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比
オーディオ			37,984	89	96	44,913	74	88	352,724	90	96	437,786	80	93
ビ デ オ			4,559	11	152	16,028	26	183	37,607	10	140	108,635	20	128
合 計			42,543	100	100	60,941	100	102	390,331	100	99	546,421	100	99

<参考>表4. 複合型CD(CD-G、CD-I、CD-ROMなど)

			10月 実 績						2000年(1月～10月) 累 計					
			数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比	数 量	構成比	前 年 同月比	金 額	構成比	前 年 同月比
邦 盤			12,470	100	101	1,229	100	81	145,650	100	117	15,928	100	89
洋 盤			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計			12,470	100	101	1,229	100	81	145,650	100	117	15,928	100	89

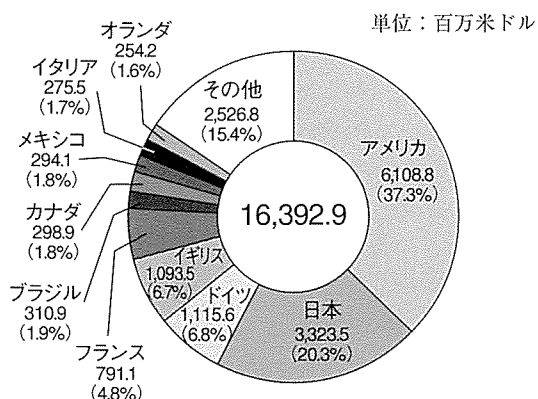
備考 1. 本年実績は、会員会社「24社」の集計である。当会員会社が受託した非会員社からの販売委託分を含む。
2. 単位未満四捨五入により、内訳と合計が一致しない場合がある。

世界のレコード中間売上

本号は、IFPIの調査による47カ国のレコード売上のデータを使って、各国のレコード売上を纏めました。

表1. 主要各国のレコード売上

2000年1～6月



(注) ()の数値は構成比

1999年1～6月

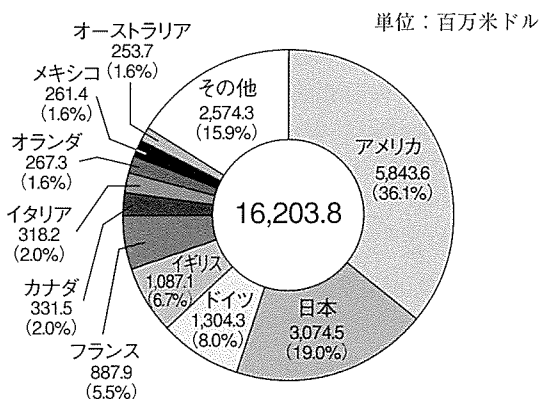


表2. 各国の売上(2000年1～6月)

国名	シングル (百万枚)	LP (百万枚)	テープ (百万巻)	C D (百万枚)	売上総額		成長率(%)		
					(百万US\$)	(各国の通貨・百万)	枚数	US\$	各国通貨
アメリカ	22.8	1.0	38.7	419.7	6,108.9	6,108.9	-1%	5%	5%
日本	58.4	4.8	3.1	139.0	3,323.5	355,064.5	3%	8%	-3%
ドイツ	28.2	0.3	9.6	89.9	1,115.6	1,163.0	5%	-14%	-3%
イギリス	32.9	1.4	5.0	77.9	1,093.5	696.4	6%	1%	4%
フランス	18.1	0.2	4.9	48.8	791.1	824.7	1%	-11%	1%
ブラジル	0.2	-	0.01	45.5	310.9	555.8	29%	28%	31%
カナダ	0.2	-	1.3	24.8	298.9	438.0	-13%	-10%	-11%
メキシコ	0.1	0.02	6.2	23.9	294.1	2,789.1	-5%	13%	10%
イタリア	2.5	0.01	5.2	19.6	275.5	287.2	-5%	-13%	-2%
オランダ	3.4	0.1	0.1	20.8	254.2	265.0	8%	-5%	8%
スペイン	0.9	0.01	4.3	26.8	246.8	257.3	21%	-4%	9%
オーストラリア	4.8	0.03	0.3	15.8	221.5	362.5	-4%	-13%	-8%
韓国	0.06	-	10.8	9.5	160.5	179,841.6	17%	51%	42%
台湾	0.5	-	1.9	16.0	160.0	4,905.6	-3%	0%	-6%
スウェーデン	2.6	0.02	0.2	11.1	153.9	1,343.7	20%	6%	13%
ベルギー	4.0	0.02	0.05	9.4	137.4	143.2	-2%	-7%	5%
オーストリア	2.0	0.01	0.3	8.6	134.9	140.5	16%	-4%	9%
スイス	1.5	0.04	0.6	9.0	116.3	192.0	3%	-8%	3%
デンマーク	0.9	0.001	0.1	8.8	106.1	822.6	21%	-4%	9%
ノルウェー	0.6	-	0.1	6.4	105.4	895.5	-1%	-7%	2%
コロンビア	0.01	0.02	0.6	6.2	105.1	210,079.7	-	-	-
その他	3.5909	0.0652	120.32	65.8	878.8	-	-	-	-
合計	188.2609	8.0462	213.68	1,103.3	16,392.9	-	1%	1%	-

(注) 1. 米ドル換算レートはIMF(国際通貨基金)による3ヶ月ごとの平均レートより算出。

2. カセットシングル、CDシングルはシングルに含まれている。

サンプル盤、プロモーション盤の売買について

「サンプル」、「見本盤」等といったステッカーや刻印の表示があるCD等の録音物は、レコード会社がプロモーション等の目的で、試聴用として「貸与」しているものです。従って、そのサンプル等の所有権はレコード会社が有しているので、そのレコード会社に無断で譲渡や売買することができません。

RIA
Recording Industry Association of Japan 2000年12月号

発行人 富塚 勇
編集人 木村 三郎
発行日 2000年12月10日
発 行 社団法人 日本レコード協会
〒104-0061 東京都中央区銀座7-16-3 日鐵木挽ビル2F
TEL.03-3541-4411 (代)
FAX.03-3541-4460 (代)
URL:<http://www.jmusic.ne.jp/>